

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1990100131	
法人名	株式会社イービーエーサービス	
事業所名	グループホームおおさとの憩	
所在地	甲府市大里町3375-1	
自己評価作成日		評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	平成22年12月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>入居者がその人らしい生活を送れるようプランを基に利用者中心のケアを進めており、また、内外部の研修に率先して参加し職員のスキルアップに努めている。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>住宅地にあり、同事業所の有料老人ホームと向い合せて広い庭がある。玄関から外に出ても芝生や植木・草花で心が癒され、門から出る気は失せてしまいそうな生活環境である。また、庭を見渡せるテラスには椅子が置いてあり、利用者のくつろぎの場となっている。枯露柿づくり・白菜漬け・梅漬け等、昔からの生活を継続させている。週2回、移動販売のパン屋やヤクルトから自分で選んで買い物も出来る。俳句の会(もくれんの会)や習字は月2回、実施している。行事の時にはボランティアの参加もある。居室は畳の部屋とベッドの部屋が半々であり、自由に選んで好きな様に居室づくりが出来ている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームおおさとの憩

[セル内の改行は、(Altキー) + (

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は会社統一の理念と事業所独自の理念があり、みんなの目のつくところに掲示し、朝礼時、職員で唱和して認識確認している。	理念は会社統一の理念と事業所独自の理念があり、みんなの目のつくところに掲示し、朝礼時、職員で唱和して認識確認している。	職員で考えた理念「笑顔の和・地域との和・言葉の愛」と「介護の心得5か条」を毎日の支援の中で活かしている。出勤職員の顔写真が玄関に貼ってあり、利用者・家族とのコミュニケーションが取りやすい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、また、施設での行事には地域の方を招待し交流の場を設けている	地域の行事に積極的に参加し、また、施設での行事には地域の方を招待し交流の場を設けている	ふれあいサロン等地域の情報を得て参加している。近くの小学校に利用者の作ったゴミ箱と施設新聞を持って行っている。学校からは行事予定表が届く等の交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事への参加を通し、地域との関わりを大切にし、認知症の理解や支援方法等の情報の発信をしている。	地域の行事への参加を通し、地域との関わりを大切にし、認知症の理解や支援方法等の情報の発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中であがってきた改善点等は修正し、また、時間がかかるものに関しては次回の運営推進会議で進捗状況の報告を行い、一つひとつの意見を大切にしている。	運営推進会議の中であがってきた改善点等は修正し、また、時間がかかるものに関しては次回の運営推進会議で進捗状況の報告を行い、一つひとつの意見を大切にしている。	毎月、発行している新聞の中に会議の開催日を知らせ、参加を呼びかけている。利用者も参加している。「誘導灯が小さいので大きくしてほしい」「夕食は～が良い」等の意見がある。会議の結果は新聞に載せている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者・地域包括支援センター職員と連絡を密にし、情報の透明化を目指し取り組んでいる。	市町村担当者・地域包括支援センター職員と連絡を密にし、情報の透明化を目指し取り組んでいる。	市や地域包括支援センターにも新聞を持参している。わからない事は意見を聞いたり、研修会にも参加し、コミュニケーションを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしておらず、自由に出入りができるように心がけている。身体拘束廃止委員会を設置し、会議や研修を通し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠はしておらず、自由に出入りができるように心がけている。身体拘束廃止委員会を設置し、会議や研修を通し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。玄関の外には広い庭があり自由にでも危険のない環境である為、自由に散歩やベンチで外気浴を楽しんでいる。困った時には他事業所の意見を聞いたり、委員会やフロア会議で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	コンプライアンス委員会や身体拘束廃止委員会・リスクマネジメント委員会を設置し、職員の認識を強化し研修や勉強会を実施している。	コンプライアンス委員会や身体拘束廃止委員会・リスクマネジメント委員会を設置し、職員の認識を強化し研修や勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外での研修を通じ知識の習得に励み、介護支援専門員と連携し必要性の可否について検討の場を設けている。	内外での研修を通じ知識の習得に励み、介護支援専門員と連携し必要性の可否について検討の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・改定時に疑問点が残らないように説明している	入居時・改定時に疑問点が残らないように説明している		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通し意見を吸い上げ、運営に反映できるよう努力している。	家族会を通し意見を吸い上げ、運営に反映できるよう努力している。	苦情箱が設置してあるが意見はない。家族会は、年2回、平日の昼間に開催している。食費が安いので食事内容が心配との意見があったが、一緒に食べてみて安心したということもあった。出勤職員の顔写真は気軽に話をするきっかけとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議に本社職員が参加し、事業所職員の意見を吸い上げ、運営に反映できるよう努力している。	月1回の全体会議に本社職員が参加し、事業所職員の意見を吸い上げ、運営に反映できるよう努力している。	エリアマネージャーが情報を会社に伝えている。「テレビの購入」「皆勤賞手当」「研修費等を福利厚生に」等の意見が挙げられている。今の事業所の理念も職員皆で決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加やスキルアップができる環境の提供をしている。 給与等に関しては、賞与の人事考課の整備をしている。	外部研修への参加やスキルアップができる環境の提供をしている。 給与等に関しては、賞与の人事考課の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が率先して研修に参加できるようにシフトの作成を工夫している。また、外部研修で学んだ事を内部での研修に落とし込み、介護レベルの統一化を図っている。	職員が率先して研修に参加できるようにシフトの作成を工夫している。また、外部研修で学んだ事を内部での研修に落とし込み、介護レベルの統一化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター職員や地域連絡協議会に参加し、情報交換等を通じ事業所のレベルアップに努めている。	地域包括支援センター職員や地域連絡協議会に参加し、情報交換等を通じ事業所のレベルアップに努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者に担当を決め信頼関係の構築に努め、安心して生活できる環境づくりに努めている。	入居者に担当を決め信頼関係の構築に努め、安心して生活できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、サービスに取り入れるよう努力している。	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、サービスに取り入れるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当職員・計画担当者がアセスメント及びモニタリングを行い、確実な課題分析をし自立支援に必要なフォーマル・インフォーマルなサービスにつなげている。	担当職員・計画担当者がアセスメント及びモニタリングを行い、確実な課題分析をし自立支援に必要なフォーマル・インフォーマルなサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちに寄り添い共感することにより、その方が出来る事やしたいことを中心に共同生活住居を構築できるよう努力している。	本人の気持ちに寄り添い共感することにより、その方が出来る事やしたいことを中心に共同生活住居を構築できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただけない家族には広報誌を発行し、入居者の状況を伝えられるようにしている。	面会に来ていただけない家族には広報誌を発行し、入居者の状況を伝えられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる方に対し、広く機会を提供している。	面会に来られる方に対し、広く機会を提供している。	利用者の行きたい所を聞いて対応している。(温泉・食事場所・いちご狩り)ヤクルトやパンを週1回業者が売りに来るのを利用者自身で選んで購入している。お金も自ら払っている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士コミュニケーションを多く取って頂く様工夫し、外食・散歩・行事・誕生会等企画し、関わり合いを多くし共同生活が楽しくおくれる様支援している。	利用者同士コミュニケーションを多く取って頂く様工夫し、外食・散歩・行事・誕生会等企画し、関わり合いを多くし共同生活が楽しくおくれる様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談援助に努め、他施設との連携の強化を図っている	退居後も相談援助に努め、他施設との連携の強化を図っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族に接する中で生活の希望・思いや意向をくみ取り、職員間で共有し介護計画に盛り込んでいる。	入居者・家族に接する中で生活の希望・思いや意向をくみ取り、職員間で共有し介護計画に盛り込んでいる。	入居時に「個別生活特性シート」に利用者や家族の思いを記入し、年2回担当の職員が、利用者全員から「出来る事やしたいこと」等の希望を聞いて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族から面談を通じ情報を収集している。また、以前利用していたサービス事業所からの情報の収集にも努めている。	入居時、本人や家族から面談を通じ情報を収集している。また、以前利用していたサービス事業所からの情報の収集にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者が本人の出来ること、出来ない事を観察し、生活の中で出来ることをして頂き、本人のペースで生活できるよう日々、心身状態の把握に努めている。	担当者が本人の出来ること、出来ない事を観察し、生活の中で出来ることをして頂き、本人のペースで生活できるよう日々、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や介護計画の見直し時に、担当職員・本人・家族の意見を介護計画に反映出来るようにしている。本人の変化に応じ、サービスの追加、変更を行っている。	ケース会議や介護計画の見直し時に、担当職員・本人・家族の意見を介護計画に反映出来るようにしている。本人の変化に応じ、サービスの追加、変更を行っている。	入居時には、センター方式を基本ベースにアセスメントし、暫定プランを作成している。かかりつけ医は往診時・看護師は週3回・担当者は毎日実践記録を記入し、1か月に1度評価して必要時は計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービスチェックを作成し週間経過記録と1か月総合評価をしている。 月1回の全体会議を持ち、統一したケアに努めている。	サービスチェックを作成し週間経過記録と1か月総合評価をしている。 月1回の全体会議を持ち、統一したケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画通り実施する事が望ましいが、その時の入居者の状況で柔軟に対応している。	介護計画通り実施する事が望ましいが、その時の入居者の状況で柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報を元に地域で行う行事に参加したり、散歩や買い物などで地域とのつながりに努めている。	運営推進会議での情報を元に地域で行う行事に参加したり、散歩や買い物などで地域とのつながりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は往診として月2回きていただいているが、地域の総合病院と連携協定書を結び、緊急時の対応がスムーズに行くよう心がけている。	内科は往診として月2回きていただいているが、地域の総合病院と連携協定書を結び、緊急時の対応がスムーズに行くよう心がけている。	かかりつけ医は利用者・家族の希望としている。受診は原則的には、家族が対応となっているが、無理な時には職員が付き添って行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は入居者の日々の変化に対応できるよう、研修等を通じ学んでいる。また、担当ナースと情報共有し医療分野において相談できる環境をつくっている。	介護職は入居者の日々の変化に対応できるよう、研修等を通じ学んでいる。また、担当ナースと情報共有し医療分野において相談できる環境をつくっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に対し、入院時の情報の提供をできるだけ詳細に行っている。また、入院者に対し定期的に様子を観察するため病院へ伺っている。	協力医療機関に対し、入院時の情報の提供をできるだけ詳細に行っている。また、入院者に対し定期的に様子を観察するため病院へ伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には家族の意向を十分に組み入れ、適切なケアを提供できる環境づくりに努めている。	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には家族の意向を十分に組み入れ、適切なケアを提供できる環境づくりに努めている。	看取りについての指針は作成しており、同意を得ている家族もいるが今までに例はない。かかりつけ医が遠いので近くの病院といつでも受け入れてもらえる様に連携を取っている。職員も看取りに関しての研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的に消防署の協力により応急処置の研修を受けている。	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的に消防署の協力により応急処置の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練をおこなっており、そのうち1回は、地域の方に声をかけ避難訓練の参加を協力して頂ける様依頼している。	年2回、避難訓練をおこなっており、そのうち1回は、地域の方に声をかけ避難訓練の参加を協力して頂ける様依頼している。	表と裏から避難が出来る様になっている。訓練時は庭が広いので一旦は庭に集合している。避難場所は大里小学校になっている事をみんなで確認している。前の建設会社のオーナーに非常時には協力してもらえる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止委員会を設置し、言葉による虐待の防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、言葉による虐待の防止に努めている。	朝、介護5か条を唱和しているので荒々しい言葉を使う職員はいない。利用者は苗字で呼んでいる。採用時と随時にリーダーから利用者の人格尊重や接遇の研修を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いを大切にし、自己表現を促すよう声かけに注意している。	入居者の思いを大切にし、自己表現を促すよう声かけに注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いを大切にし、自己表現を促すよう声かけに注意している。 入居者を第一に考え、臨機応変に対応できるような環境づくりに努めている。	入居者の思いを大切にし、自己表現を促すよう声かけに注意している。 入居者を第一に考え、臨機応変に対応できるような環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活チェック表を作成し、毎日清潔保持に努めている。 個人個人の思いを大切にし、できるだけ希望に添えるよう努力している。	生活チェック表を作成し、毎日清潔保持に努めている。 個人個人の思いを大切にし、できるだけ希望に添えるよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人のマイカップ・箸・おぼん・茶碗を用意し、配膳・下膳・食器洗い・食器拭きなど、その方の力に合わせて支援している。	個人のマイカップ・箸・おぼん・茶碗を用意し、配膳・下膳・食器洗い・食器拭きなど、その方の力に合わせて支援している。	調理の出来る利用者は3名いる。他の利用者も本部からのメニューを事業所の献立表に書き移したり、食堂のモップがけ等出来る事はしている。年2回外食している。ラーメン等の出前も取っている。	本部からの一括メニューであるが、月1～2回は利用者の希望メニューが入られる様に、献立についての話し合う場が出来る事を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立があり、それに添って食事の提供をおこなっており、水分については日中・夜間時の水分チェックをおこなっている。	栄養士の作成した献立があり、それに添って食事の提供をおこなっており、水分については日中・夜間時の水分チェックをおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は実施していただき、介助が必要な方については職員が毎食後、口腔ケアをおこなっている。また、口腔ケアの内容についても、歯科医と連携をとり、より良い方法の推進に努めている。	自分でできる方は実施していただき、介助が必要な方については職員が毎食後、口腔ケアをおこなっている。また、口腔ケアの内容についても、歯科医と連携をとり、より良い方法の推進に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の生活リズムに合わせた時間にトイレ声掛け誘導をし、トイレで排泄をしてもらう様支援している。 オムツやパットの使用を減らせるよう全体会議を通し検討している。	入居者の生活リズムに合わせた時間にトイレ声掛け誘導をし、トイレで排泄をしてもらう様支援している。 オムツやパットの使用を減らせるよう全体会議を通し検討している。	排泄チェック表を作成し、個人にあつて対応をしている。尿取りパット使用で極力おむつは使わない。昼は全員トイレで排泄している。夜間も薬の検討と安全面の配慮をして車椅子でもトイレに行っている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	研修を通し、医療分野での勉強会をおこない知識の習得に励んでいる。 体操の時間を定期的につくることにより、便秘の防止に努めている。	研修を通し、医療分野での勉強会をおこない知識の習得に励んでいる。 体操の時間を定期的につくることにより、便秘の防止に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全体会議を通じ入浴時間の検討をおこなっており、できる限り入居者の希望に即した入浴時間になるよう検討している。	全体会議を通じ入浴時間の検討をおこなっており、できる限り入居者の希望に即した入浴時間になるよう検討している。	入浴日は、(月・木)となっている。入浴の順番が公平になるように入浴ノートを作成してある。	入浴は時間や回数等、各利用者によって異なるため、業務の見直しをして毎日少人数づつ入るようなシステムに変え、利用者が希望する時間に入浴出来る事を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況に即した就寝をしていただけるよう、就寝介助の時間帯の検討をおこなっている。	生活状況に即した就寝をしていただけるよう、就寝介助の時間帯の検討をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が一元的に管理し、薬の内容については、全体会議や研修を通し、知識の習得に励んでいる。	看護師が一元的に管理し、薬の内容については、全体会議や研修を通し、知識の習得に励んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	サークル活動を充実させるよう会議で検討をしている。 また、外食の行事の際は嗜好調査等をおこない、できるだけ楽しんでいただけるよう心がけている。	サークル活動を充実させるよう会議で検討をしている。 また、外食の行事の際は嗜好調査等をおこない、できるだけ楽しんでいただけるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1日1回は戸外に出れるようシフトの調整をおこなっている。 年に数回、バス等を使い遠方への行事を企画し外出支援に努めている。	1日1回は戸外に出れるようシフトの調整をおこなっている。 年に数回、バス等を使い遠方への行事を企画し外出支援に努めている。	玄関から出ても庭が広く、芝生や庭木・花等を見ているだけで十分な外気浴になる。テラスには椅子があり、ゆったりと自然の中に浸っていられる。希望が出た時には個人的に買い物等の対応をしている。食事会の企画もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる入居者のみ、お金を管理している。お金の管理ができない入居者にも外部から飲料だけが移動販売業者に来ていただき、物を買うという環境の提供をしている。	お金の管理ができる入居者のみ、お金を管理している。お金の管理ができない入居者にも外部から飲料だけが移動販売業者に来ていただき、物を買うという環境の提供をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる環境であるが、入居者の心身状況に沿って支援している。	電話ができる環境であるが、入居者の心身状況に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の写真を展示したり、手芸作品を居室の入り口に付けたりして、居心地の良い場所作りを工夫している。	季節の行事の写真を展示したり、手芸作品を居室の入り口に付けたりして、居心地の良い場所作りを工夫している。	大型テレビ・ビデオ・マッサージ器・カラオケ設備があり活動的な様子である。庭は広く植木や花・野菜等から季節の移り変わりが感じ取れる。また、野菜の成長の観察を楽しむ利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前・ホールに長椅子を設置し空間作りに努めている。 テラスに花を植え入居者の癒し空間になるよう工夫している。	玄関前・ホールに長椅子を設置し空間作りに努めている。 テラスに花を植え入居者の癒し空間になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものを置いたり、趣味の物を展示したりして生活に活気がでる様工夫している。	馴染みのあるものを置いたり、趣味の物を展示したりして生活に活気がでる様工夫している。	畳の部屋とフローリングの部屋を自由に選べる。戸棚と机は事業所で用意し、他の家具は利用者が自由に持ち込み、自分好みの部屋となっている。希望があれば、家族も宿泊出来る体制が出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・個人の部屋が認識できるよう工夫している。また、安全に生活ができるよう物の置く場所も気を配っている。	トイレ・浴室・個人の部屋が認識できるよう工夫している。また、安全に生活ができるよう物の置く場所も気を配っている。		